

令和6年度 大学塾 第4ステージ 開催案内

いまさら誰にも聞けない 日本史の謎

この国は西暦何年に誕生したの？ 公家と公卿の違いは？
どうして将軍を「公方様」というの？
豊臣秀次はなぜ関白なのに切腹させられたの？
大河ドラマで注目の江戸の出版業界の裏側などなど。
知っているようで知らない日本史の謎を解説します。



豊臣秀次像(瑞泉寺蔵)

講 師：跡部 茂(あとべはん)氏 歴史研究家/博士(文学)・江戸ぶら会会長(足立区在住)
日 時：2月15・22、3月1日(土曜日)全3回 午後2時～4時
会 場：足立区生涯学習センター(学びピア21内)5階 研修室1
講義内容：第1回 「日本国の建国」から「武士誕生」と「武家政権誕生」まで
第2回 「幕府政治の開始」から「乱世」の時代まで
第3回 「江戸の出版業界」から「廃藩置県」まで

新入会員のご挨拶

…学び直しの時間にしようと…



はじめまして渡辺秀子と申します。
10月の足立フェスタ2024の際、学びピアに立ち寄り「樂学の会」に入会させて頂きました。2023年度の区民大学塾の講演、講座数が13。歴史、文学、芸術、経済など多岐にわたる企画・開催までの一切をボランティア活動で、長く維持発展されてこられた皆様の力量とご努力に敬服しております。私は仕事、子育て現役時代は夢中で走って来ました。退職後も緩い勤務を続け昨年3月で終わりました。それ以後は学び直しの時間にしようと考えています。生活圏の中にも面白い事が沢山発見出来る学びは元気の元です。「樂学の会」の内側の皆様の一員に加えて頂きましたことを感謝しております。よろしくお願ひします。



…有意義な講座が実施できるように…

10月に入会した勝間栄雄と申します。千住生まれの千住育ちなので、以前から生涯学習センター内の「樂学の会」の存在を承知していたのですが、当講座には一度も参加したことはありませんでした。地元でもあるので以前から会員さんとのお付き合いがあり、ある会員さんからボランティア会員の入会のお誘いがあり、多少時間の余裕もありお引き受けいたしました。月に3回程の講座の準備等のお手伝いをすることになりましたが思ったより大変で当初戸惑いもありましたが現在は大分慣れ、少数精鋭で活動しています。講演が始まれば会場で興味あるお話を楽しく拝聴させて頂いています。毎月の企画会議ではコーディネーターが提案する企画を討議します。その後実施に向けて計画書・手順書作成等難しい作業をベテランが進めていくのを見ると裏舞台で頑張っている会員がいるのだなと感動しています。今後も有意義な講座が実施出来るようにと思っています。

(勝間 栄雄)

令和6年度 大学塾 第3ステージ 開催講座 報告

20世紀の絵画を楽しむ (マティス・ピカソ・ローランサンほか)

11月9・23・30日（土）の3回にわたり足立区生涯学習センター4階講堂において開催された。講師は前ブリヂストン美術館（現アーティゾン美術館）館長で実践女子大学名誉教授の島田紀夫氏。受講者は、第1回27名、第2回は25名、第3回は25名で、合計77名であった。

第1回は「マティスとフォーヴィスム」アンリ・マティス（1869～1954）は北フランスで生まれる。法律事務所で働いていた中、病気療養中に絵を描いたことから画家を志す。パリにある名門エコール・デ・ボザール美術学校には意外に1度不合格になった経験がある。点描技法を用いた《豪奢・静寂・悦楽》を制作するなど、ポール・シニャックやアンリ・エドモン・クロスなど、出会う画家たちの影響を受け画風は変化していく。フォーヴィスム（野獣派）とよばれる原色を用いた大胆な色彩、荒々しい筆のタッチでドランやヴラマンクと共にサロン・ドートンヌに出品をする。フォーヴ（野獣）とは彼らの作品が展示された部屋は批評家のルイ・ヴォーセルが「野獣（フォーヴ）の檻のドナテルロだ」と評したことから呼ばれた。フォーヴィスムは短く1905年から3年程しかない。1906年以降の作品は、《生きる幸せ》に由来する裸体人物像によって構成される作品と文様のある布などを伴う静物画および室内画との二つの系列に分類できる。晩年は体力が弱まり予め彩色された紙を切り貼りする「切り紙絵」を用いた。建築設計と内部装飾に携わったヴァンサンのロザリオ礼拝堂も映像にて紹介された。

第2回は「ピカソとキュビズム」パブロ・ピカソ（1881～1973）はスペイン南部で生まれる。14歳の頃から異常な画才を示す。1901年～1904年感傷と憂愁の色濃い作品を描く（青の時代）。1905年ピンクとブルーの色調で描いた（バラ色の時代（サーカスの時代））。現代絵画の誕生を告げる《アヴィニヨンの娘たち》は1907年に制作された。やがて「分析的キュビズム」に発展し、1912年頃から「総合的キュビズム」に達する。1925年からピカソの「シュルレアリズムの時代」が始まる。戦後、陶器に熱中し、彫刻を作り、版画を制作し、ドラクロワやマネなどの作品にもとづくヴァリエーションを描き、死ぬまでつねに新しい展開を示した。マティスは色の探求、ピカソは形の探求と解説されていた。そしてピカソの作品にしばしば描かれている恋人たち。結婚したのは2人。他にも恋人はたくさんいた。発表している作品以外にそれぞれの家にて作品を描き残していることから、時折、ピカソの絵画展などで未だにみる「初出展」「初公開」の謎はここに説明される。

第3回は「ローランサンと前衛画家たちの世界」ドラン（1880～1954）はフォーヴからキュビズムへ変化し印象が大きく変わっていった。ヴラマンク（1876～1958）はフォーヴ時代の強烈な色彩から黒・藍・白を基調にした暗く重い色彩が用いられた。ブラック（1882～1963）はキュビズムの創始者。キュビズムはピカソとブラックの共同作業として展開していく。絵画は現実を表現する必要はなく画家の感覚を表現するものと説明される。マリー・ローランサン（1863～1956）はパリで生まれる。画塾で知り合ったブラックの紹介で共同アトリエ「洗濯船（バトー・ラヴォワール）」でピカソや詩人のアポリネールと出会う。フォーヴィスムやキュビズムの影響を受けた時期もあったが独自のピンクやブルーのパステル・カラーを多用した画風はメランコリックな雰囲気が漂う。18世紀のロココ趣味を感じさせる優美さは多くの人を魅了した。

受講者アンケート：たくさんのスライドと、先生の深い知識をたくさんお話してくださりとても興味深い講座でした。画家それぞれの人生や、家族、恋人の人生のお話も面白く、絵を見るときに、それをおもいつつ見ることが出来るのではと思いました（50代女性）。・今回もまた島田先生の講義、大変めになり楽しく勉強になりました。先生のお話を伺った後に絵を見ると見え方が全く違うのが分かります。また、次回も楽しみにしつけ居ります（50代女性）。・絵画を見て、一つ一つの作品に歴史があり意味があるのだとわかりました（30代女性）。ブリヂストン美術館は好きな美術館で頻繁に訪れます。島田先生のキャリア穩やかな人柄が伺える笑顔とソフトな話術、ありがとうございました（70代女性）。受講者からは「数多くの映像と共に分かりやすい解説を聞くことで理解が深まった。」などの感想が寄せられました。

美術鑑賞には、独特的な空気感、絵画が放つ価値観や存在感など日常では味わえない魅力や癒しの効果があります。受講者の関心度の高さも、アンケート結果から明らかで、企画の意図は充分伝わったものと言える。

（西村雅美）



令和6年度 大学塾 第3ステージ 開催報告

元 NHK アナから学ぶ 話し方スキルアップの技法

12月2日、16日、23日(月)に岡部晃彦をむかえて講座が開催されました。第1回目が16名、第2回目16名、第3回目が14名でした。1回目のテーマは「シッカリと話そう」まずグループを4つに分け、自由に話し合いを行いました。終了後、Aグループの1人が自己紹介をしました。名前と職業を話しました。その内容について先生が解説しました。話す前に伝えることに一生懸命になることが大切です。主役にならないで具に徹すること。対話的に話すこと。第一印象は内面的な事より外面的なことが大切。第一印象の決め手が55%、音声が38%であること。笑顔をみせれば良い。次に音声の伝達力を確かめよう。声のエネルギーは「息」です。声の高さの表現が意味を強調する場合に必要。それがアクセントやイントネーションを明確にする。話の明るさや暗さに影響を与える。話の今の距離感を分からせるためにも必要です。声が小さめの方は最初ごく小さな無聲音(声帯の振動させない)、次にみんなに聞こえるように無聲音、そして、同じ息づかいで、有聲音(声帯を振動させる)に切り替える練習をすると良い。次、次に自己紹介を行う。自己紹介は人の聴きたいことを話す。自分の基本情報、この場で生まれた話題、商売の裏話(専門性)、会に来たわけ(共通性)、以後よろしく情報を話題として話す。普段の言葉でちょっと丁寧に。名刺を言葉にして差し出す。困ったときは、現在、過去、未来について話す。歌なら1番の歌詞ぐらいの長さで話すのが丁度良い。

第2回は「分かりやすく話そう」「分かる」には、誰にも分かる、はっきり分かる、すぐに分かる、なるほど分かる、気持ちが分かる、がある。「誰にも分かる」問題・平易な言葉でゆっくり話す。・専門用語は一般用語に見える。・譬えや故事などを言葉にするとイメージがわきやすい。声の強さは最後部に伝わるような大きさで伝える。相手の脳にやさしく、ころにもやさしく。しかし、言葉のイメージは人さまざまです。たとえば、すぐ調べますのでそのままお待ち下さい、と言われたときはどれくらいの時間を想像するのであろうか。また、銀座の高い店と言ったときにどれくらいの値段であると思うだろう。「すぐに分かる」・センテンスは短く・大切な言葉やフレーズを音声的に分からせる。組み立て直す。「組み話す。話す。」・件名、結論、詳細に分ける・詳細は項目に分ける・項目の「項目名」(小見出し)を付け、項目名を先行して(主語にして)話す。・件名(タイトル・話題)「～についての〇〇です」・結論(全体像・主旨)「一言でいようと…」・詳細「大項目1 中項目 小項目 大項目2 中項目 小項目 …」「なるほど分かる」問題 論理的に分からせる…ロジックの論法・理由は丁寧にいう。・理由は「理屈=論拠」と『証拠となる事実=根拠』が必要・「論拠」は、理由を一言で言ったもの・「根拠」は、理由を証拠づけるデータや事例のこと。(エビデンス)
●優しい話法(心にソフト・ランディング)「心から入って心から出る」心にうれしく響く言葉から入り、タスク(仕事)となる情報を言い、終りは、やはり相手の心にうれしく響く言葉にする。⇒伝えること(タスク)⇒
第3回目は、「スピーチの実践」です。スピーチは、どのようなものか。・スピーチの素材は自分で見つける。・自分で工夫する。・他人に代替できない。・主観的意見や感想が多い。・何か言いたいことがある。・印象や感興を求める。●スピーチの視点(「何を」と「どう」)の再確認。【何を】(内容=what) ▲話の件名・話題(件名)をあくまで逸脱しない。▲言いたいこと(メッセージ・結論)・明快に(はっきりと)持つこと。・言いたいことは欲張らないで絞る事。▲話の素材・具体的な体験やエピソードを用いる。・自分や登場人物を解りやすく説明する。(前提説明・補助説明)☆スピーチ向上のために。①話すことに関心と意欲を持つ②自分が話せる話題を蓄積しましょう ③話することは考えること。話することは一生の修行なのです。

【アンケート】:・分かりやすく話すことは、組み立てや声の高揚、抑揚が大切であることが分かりました。実際にやってみると伝えることは難しいと思いました。今回習った技法。順番は結論から言うと伝わりやすいという事。①件名 ②結論 ③詳細に、これを身に付けると伝わりやすくとても役立つと思います。(50代女性)・貴重なお話をありがとうございました(60代男性)・講師と受講生が対話型で進められ、わかりやすいです。特に事例による問い合わせが、ああーそうなんだ!と考えさせる思いです。何をどう話すかという順序、それによる受け手の反応という視点で学びました。(70代男性)

(安田善英)



足立区の文化財シリーズ

みんなの広場

東京文化財ウォークで特別公開される足立の文化財

毎年10月～11月に東京文化財ウォークが開催されます。足立区では毎年この時期に東京都指定文化財となっている3件の仏像と仏画が特別公開されます。

性翁寺（扇2-19-3）の「木造阿弥陀如来坐像」。奈良時代この付近の有力者で、子だからに恵まれなかつた宮城宰相（足立庄司）は熊野權現に祈願して足立姫が授かりましたが、嫁ぎ先との折り合いが悪く、入水してしまいます。再び熊野に詣でた折に発見した靈木で僧行基に6体の阿弥陀像（六阿弥陀）と余った木で小ぶりの阿弥陀像（木余如来、像高42.0cm）を彫ってもらいました。六阿弥陀は足立区から江東区にかけての6寺院に安置され、木余如来は宮城宰相の屋敷内に庵を造って安置し、これが後に性翁寺となったと言われています。性翁寺には足立姫に関連した縁起・縁起絵・お墓などが保存されています。江戸時代明暦年間（1655～1658）頃から近代まで、この六阿弥陀詣は江戸・東京市民の巡拝習俗となり、大変賑わったと言われています。六阿弥陀詣に関する情報はネットで検索をお願いします。その他の関連施設として宮城の氷川神社は宮城宰相の居館跡と伝えられており、鹿浜の虫切りは行基の宿泊地と言われています。更に熊木・本木の地名もこの伝説と関連があると言われています。「あだち区民大学塾」では令和4年に「性翁寺住職に聞く「足立姫」伝説と地域社会」講座を開催しています。

西新井大師総持寺（西新井1-15-1）の「絹本着色虚空蔵菩薩像附修理関係文書三点」。室町時代に描かれた仏画で、密教修行で記憶力を強化するための虚空蔵菩薩求聞持法を行う際の本尊として使われました。万治元年（1660）、享保9年（1724）、安政4年（1857）に表具の修復がされており、旧表具の裏面に付されていましたが、平成6年（1994）に表具を改めた際に別の表具に仕立てられました。

明王院（梅田4-15-30）の「木造如意輪觀世音菩薩坐像」。像内胸側に「願主直空 作者法眼院秀 応安二年（1369）大呂（12月）一七日」と記されており、直空について詳細は不明、院秀は院派の仏師と推定されるが詳細は不明。像高は33.9cmで材料は檜の寄木造り、水晶の玉眼。6本の腕のある六臂ですが右の2手のみが残っています。修復前に付いていた宝冠及び胸飾りは別に保存されています。寛文元年（1661）に明王院3代目住職の海傳が修理した墨書が残っています。髻（もどり）は平成25年（2013）の修復の際に復元されました。

公開日は毎年変わりますので、公開が近づきましたら東京都教育庁地域教育支援部管理課発行のパンフレットまたは足立区の広報をご確認ください。
（文化財保護指導員 糸井史郎）



総持寺
虚空蔵菩薩像



総持寺
虚空蔵菩薩像



明王院
如意輪觀世音菩薩坐像

令和6年12月運営委員会 報告・連絡

日 時：令和6年12月3日（火）15:00～
場 所：生涯学習センター：5階 研修室4

11月の講座「20世紀の絵画を楽しむ」は、講堂での開催となりました。少ないメンバーでの対応となりましたが、無事終了することができました事をスタッフの皆様に感謝申し上げます。当日は、センターよりの依頼で、早稲田大学大学院教育学研修科修士生より、大学塾講座の見学と「楽学の会」のボランティアを始めたきっかけや活動の内容について、ヒヤリングを受けました。また、16・17日（土・日）に開催された、Nフェスタ2024での“会員急募”にご協力頂き有難うございました。12月の講座は「元NHKアナから学ぶ 話し方スキルアップの技法」です。今年最後の講座となりますが、皆さまのご協力を宜しくお願ひいたします。今年もいよいよ最終月となりました。来年度は様々な課題を克服して健全な事業の継続と、設立30年目を迎える様、皆さまの一層のご協力を宜しくお願ひ致します。

議事

(1) 情報交換 なし

(2) 月例会開催について

- ・11月15日（金）「新会員の自己紹介」勝間さん。
- ・12月18日（水）今年の振り返りと懇親会 17時～「日本海」参加者は鈴木さんへ連絡する
- ・1月15日（水）「新会員の自己紹介」渡辺さん。

(3) あだち区民大学塾： 講座企画会議：12/3（火）、1/6（月）、検討会議：12/18（水）、1/15（水）

- ・11月 20世紀の絵画を楽しむ（マティス・ピカソ・ローランサン他）11/9、23、30（土）講堂
応募者 34名 受講者数 29名 延べ受講者数 77名
- ・12月 元NHKアナから学ぶ 話し方スキルアップの技法 12/2、16、23（月）研1
応募者 24名 受講者数（12/2 16名）
- ・1月 萩屋重三郎 大河ドラマの主人公の実像にせまる 1/14（休・月）講堂
応募締切日 12/23（月）応募者 38名（12/3 現在）
- ・2月 今さら誰にも聞けない「日本史の謎」 2/15、22、3/1（土）研1
応募締切日 2/3（月）
- ・令和7年度前期 大学塾講座検討中、前期講座の研修室予約、会議の研修室予約をセンターに依頼中
大学塾の令和7年前期講座が固まってきた。前期までは現体制で進める。
令和7年度総会5/21で今後の方針を審議する。

併せて新会員獲得にむけ活動する。講座で会員募集する。12/2 話し方講座で1名入会申し出あり。

(4) 楽学の会 11月決算報告（予実算比）を行った

大学塾事業収入はほぼ予算通り。PC故障で新規PCを購入した（10月）ので支出は増加した。

(5) 早稲田大学大学院教育研修科修士生より楽学の会のボランティア活動へのヒアリング

11月9日（土）ボランティア活動はじめたきっかけ、活動内容、活動を通しての考え方や
生活の変化、活動を通しての社会への影響他のヒアリングを4名で対応した。

大学塾「20世紀の絵画」講座の見学体験を実施した。

(6) 各部局からの報告および提案

①学習支援部：2月分講座の交換便ヘチラシ封入作業 12/18（水）15時～、鑑、封筒の準備する。

②ボランティア活動推進部：

- ・6年度あだちサークルフェア 2024（10/12（土）、13（日）開催）センター1F ホワイエ、会員5名
- ・NPOフェスティバル 2024（11/16、17 エルソフィア）11/16 7名、11/17 5名で対応した。

2日間の来場者5,000名、会の紹介、活動内容をビジュアルに紹介し積極的に呼びかけと入会の勧誘。

③事務局：ニュース発送 12/2（月）、12/25（水）：新年号発送

事務局会 12/11（水）11月決算

④広報グループ：楽学ニュース 312号発行 ホームページ 12/1発信、メルマガ 213号発行

(7) 会員募集

- ・メルマガ 9月1日号以降 会員急募を掲載中、ホームページに「入会のお誘い」掲載中。
- ・足立朝日・足立よみうりに告知した（9月5日号）
- ・あだちサークルフェアで勧誘、NPOフェスティバルで勧誘する → 後日2名入会頂いた。
- ・大学塾講座で会員募集案内を実施中。

(8) その他

- ・八王子生涯学習コーディネーター会より会報「悠々楽習」受領。

NPO法人設立20周年記念講座実施（12月）、生涯学習フェスティバル第20回開催。

- ・社会教育 12月号 回覧

次回運営委員会 1月15日（水） 15:00から（研4）

生涯学習センター 講座情報

◎講座名：医療やケア 自分のことは自分で決める ACP のススメ

あだち 100 年大学講座

日 時：2/15（土）午前 10 時～11 時 30 分

定 員：40 人（事前申込先着順）

受講料：無料

会 場：足立区生涯学習センター 研修室 1

講 師：伊東 俊雅 氏（東京女子医科大学付属足立医療センター 薬剤師・薬剤部長）ほか

内 容：将来、重い病気になったら、自力で動けなくなったら……。どんな時でも自分らしくあるために、自分のして欲しいことやして欲しくないことを周囲に伝える方法が、アドバンス・ケア・プランニング(ACP)です。元気なうちに自分の希望を考えましょう。今回はカードゲームを使ってその方法を体感的に学びます。

◎講座名：ビタミンDと紫外線 過度な予防が引き起こす健康リスク

あだち 100 年大学講座

日 時：2/16（日）午後 1 時 30 分～3 時 30 分

定 員：30 人（対面）、10 人（オンライン）、
いずれも事前申込先着順

受講料：800 円

会 場：足立区生涯学習センター 研修室 1

講 師：中島 英彰 氏（国立開発研究法人国立環境研究所）

内 容：過度な紫外線対策により、成人男女の 98% が不足していると言われているビタミン D。その欠乏状態は分かりにくく、骨の軟化やメンタル不調など、全世代に及ぶ深刻な健康リスクとなっています。心身の健康を守る適正な日光浴のヒントを、有害紫外線研究者よりお伝えいたします。

お申込みは：電話（03-5813-3730）又は直接窓口
インターネット【近所 de まなびナビ】で検索
イベント・講座情報→講座予約システム



舍人公園の大池とメタセコイア

月例会のご案内

令和7年1月「月例会」のご案内

日時：1月 15 日（水）午後 15 時～

「新入会員紹介・情報交換会」

皆さまの積極的な参加をお願いします。

（ボランティア活動推進部）

楽学インフォメーション

★会合のお知らせ★

- ◎ 運営委員会
1月 6 日（月）午後 3 時～4 時 研修室 4
- ◎ 月例会
1月 15 日（水）午後 3 時～4 時 日本海
- ◎ 学習支援部
1月 15 日（水）午後 1 時半～2 時 研修室 4
- ◎ ボランティア活動推進部
1月 休会
- ◎ 事務局
1月 10 日（金）1 時半～4 時 ワークルーム
- ◎ 広報グループ
メール会議
- ◎ 大学塾講座検討会議
1月 15 日（水）午後 2 時～3 時 研修室 4
- ◎ 大学塾講座企画会議
1月 6 日（月）午後 2 時～3 時 研修室 4
- ◎ 生涯学習センター 休館日
1月 6 日（月）

★お問い合わせ＆ご意見

- ◎ 「楽学の会」の運営に関するお問合せ
事務局 福田哲郎 電話：090-3207-8444
E-Mail：tefukuda2002@yahoo.co.jp

編集後記

脱炭素化社会に向けて 持続可能な経済社会 実現に向けた取組

世界規模で異常気象が発生し、大規模な自然災害が増加するなど、気候変動問題への対応は今や人類共通の課題となっています。我が国においても、自然災害をはじめ、自然生態系、健康、農林水産業、産業・経済活動など、様々な分野に影響が及んでおり、人類や全ての生き物にとっての生存基盤を揺るがす「気候危機」とも言われる状況です。それらの課題解決と経済成長を同時に実現しながら、経済社会の構造を変化に対してより強靭で持続可能なものに変革する新しい循環型経済社会づくりが必要です。また炭素依存社会の体質からも、早期脱却すること、まさに今、実現に向けた取組を加速することが重要と言えます。2050 年カーボンニュートラルと 2030 年度温室効果ガス 46% 削減目標の実現は、決して容易なものではなく、2030 年までの期間を「勝負の 10 年」と位置づけ、全ての社会経済活動において脱炭素を主要課題の一つとして、持続可能な社会経済システムへの転換を進めることができなくてはなりません。我が国が直面する数々の社会的課題に対し、持続可能な新たな成長施策を実現し、将来にわたる質の高い生活の確保を目指す必要があります。経済、社会、政治、技術全てにおける横断的な社会変革は、循環経済の推進によって資源循環が進めば、生物多様性も含めライフサイクル全体における温室効果ガスの低減につながり脱炭素化社会の構築に資するなど、世界各国相互の早期連携こそが最も有効、且つ手段であると言える。

（金子勝治）